

岩手県総合計画審議会  
令和5年度第5回県民の幸福感に関する分析部会

(開催日時) 令和5年9月12日(火) 14:30~17:00

(開催場所) エスポワールいわて 3階 特別ホール

- 1 開 会
- 2 議 題
  - (1) 分野別実感の分析について
  - (2) 令和5年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(案)について
  - (3) 令和6年県民意識調査(補足調査)について
  - (4) その他
- 3 閉 会

出席委員等

吉野英岐部会長、竹村祥子委員、谷藤邦基委員、

Tee Kian Heng(ティー・キャンヘン)委員、山田佳奈委員、和川央委員

欠席委員等

若菜千穂副部会長、広井良典オブザーバー

## 1 開 会

**○八重樫政策企画課評価課長** それでは、ただいまから第5回県民の幸福感に関する分析部会を開催いたします。事務局を担当しております八重樫と申します。よろしくお願いいたします。

本日は若菜委員及び広井アドバイザーが欠席とのことですが、竹村委員につきましては、リモートにより御対応をいただいております。運営要領第6条第2項の規定に基づきまして、委員の半数以上に御出席いただいておりますので、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。本日の資料につきましては、資料1、資料2、資料2-2、資料3及び資料4の他、資料2の年次レポート(案)の別冊として資料編を御用意しております。お手元の資料を御確認お願いいたします。不足等ございましたら事務局の方にお申し付けください。

また、第1回から第4回までの資料と、昨年度の年次レポートにつきましても、併せてお手元に御用意しておりますので、御覧いただきたいと思います。

次に8月1日付けで調査統計課の職員に異動がございましたので、御紹介させていただきます。調査統計課の主任主査の鈴木でございます。

**○鈴木調査統計課主任主査** 8月1日に前任の千葉に代わり、調査統計課に参りました鈴木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

**○八重樫政策企画課評価課長** よろしくお願ひいたします。なお、今回の部会につきましては、県民意識調査の結果が公表されましたので、公開での開催となっておりますので、御了承願ひします。

それでは議事に入りたいと思います。運営要領第4条第4項の規定に基づきまして、部会の議長は部会長に願ひすることとされておりますので、以降の進行につきましては、吉野部会長、よろしくお願ひいたします。

**○吉野英岐部会長** それでは、本年度第5回目の分析部会を始めたいと思います。先ほどお話があった通り、今回は公開での部会になりますけれども、こちら現場では、傍聴の方は今のところはいらっしゃらない、という状況です。いずれにしても結果は公開されますので、いつもの通りよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、議事に従いまして進めたいと思います。議題の(1)分野別の実感の分析について、幸福について考えるワークショップにおける意見等がありますので、事務局から御説明をお願ひします。

**○松館政策企画課特命課長** 事務局の松館です。資料1によりまして、幸福について考えるワークショップの開催状況、ワークショップにおいて出された意見等について、御報告します。

資料1の1ページを御覧ください。ページの中程、3ワークショップの開催状況等とございますけれども、前回、第4回の部会におきまして、6月に実施したワークショップ、4回分の開催状況を報告していたところです。今回7月に実施しました2回分につきまして、委託しているNPOから報告がありましたので、御報告いたします。

第5回につきましては、7月8日に矢巾町におきまして、参加者23名で開催されております。参加者は、自営業、パートタイマー、自治会役員等となっております。続いて、第6回といたしまして、7月10日に盛岡市において、参加者20名で開催されております。参加者は自営業、会社員、学生等となっております。

2ページにお進みください。2ページ及び3ページが、子育て分野に関する意見等となっております。矢巾町におきましては、黒ポツの1点目、待機児童はいないですとか、3点目、教育環境は良いと思う、4点目、日常生活の不便はあまり感じないなどの意見が出されております。一方で、8点目、育児休暇に対する意識、環境が整っていないですとか、10点目、児童館が満員といった意見が出されております。続いて、盛岡市におきましては、黒ポツの1点目、高校生までの医療費補助は助かった、次に進んで、文化的要素に恵まれている、3ページに行きまして、中高生と職業について話す機会が増えているといった意見が出されておりますし、その下、大人のロールモデルを見つけにくいですとか、その下、学校、家以外の勉強する場所が欲しいといった意見も出されております。

続いて、4ページ目にお進みください。4ページと5ページ、こちらは地域の安全分野に関する意見等となっております。矢巾町におきましては、黒いポツの5点目、通学時にスピード超過の運転手が多いですとか、1つ飛んで、空き家も増えている、ですとか、その下、獣害対策ができていない、ですとか、その二つ下、防災意識が低いといった意見が

出されております。また、盛岡市におきましては、5ページですけれども、3つ目、道路、歩道の除雪がされていない、ですとか、その下の、住宅街でもスピードを出す車が多いですとか、その下、北上川の氾濫が不安ですとか、その下の、熊の出没ですとか、その下、不審者案件、といった意見が出されています。

資料1ページのワークショップの開催状況に戻っていただきまして、ワークショップにつきましては、9月1日にも二戸市において開催されております。また今後の開催について、調整中の市町村もありますけれども、部回での報告はこの第6回までの開催状況ということになります。事務局から以上です。

**○吉野英岐部会長** 御説明ありがとうございます。では、この第6回までのワークショップ、今日は第5回、第6回ですけれども、この内容につきまして御質問、御意見等あれば、委員の皆さんからお願いしたいと思います。和川委員、どうぞ。

**○和川央委員** 第3回の時の学生って大学生だったと思いましたが、今回の第6回の学生というのは大学生でしょうか。記述をみると高校生なのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

**○吉野英岐部会長** 事務局、おわかりになる範囲でお願いします。

**○松館政策企画課特命課長** ちょっとだけお待ちください。すみません。後で調べて回答します。

**○吉野英岐部会長** 確認するのに時間が必要ということです。後で御回答いただけるとして、その他はありますか。ティー委員。

**○ティー・キャンヘーン委員** ワークショップについては、参考資料8に載せてはいるのですが、この第7回以降も含めて公開するというのでいいですかね。

**○松館政策企画課特命課長** 基本的にはこの資料の取りまとめまでに、NPOから報告が上がってきたものについては、参考資料に載せたいと思っています。第7回までは終わっていますので、その分は載せられるかと思っています。

**○ティー・キャンヘーン委員** これはいつまでに公表するのですか。

**○松館政策企画課特命課長** 総合計画審議会が11月の中頃に予定されていますので、その時に公表となります。

**○ティー・キャンヘーン委員** であれば、これ9月以降の2回程度の開催も入るかなと思うのですよ、全部入れて。

○松館政策企画課特命課長 この9月以降に開催調整中のものは、今まだ日程の調整がっていない段階ですので、最後の資料の取りまとめまでに終えて、報告が来れば載せていきたいと思っております。

○ティー・キャンヘーン委員 何となくこれまでの皆さんの意見からすると、結構、県央と沿岸とかが違いが大きいので、来年の参考資料にもなるので、是非一緒に載せて欲しいというお願いです。

○松館政策企画課特命課長 承知いたしました。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。ちょっと私から。これ確かに去年8回やりまして、最終回が7月23日だったので、十分部会の討議にも間に合ったのですが、今回は9月に2回やるってことは、9回までやるんですかね。

○松館政策企画課特命課長 委託しているNPOからは、今2ヶ所と調整をしていて、そのうちの1回についてはもうやる事が決まっていると。それからもう1ヶ所はできるかどうか微妙なところと聞いていますので、少なくとも8回目までは、9回目があるかどうかは、まだ調整中というところですよ。

○吉野英岐部会長 これ、昨年に比べてややスケジュール後ろになっているのは、なんか訳があるのでしたっけ。

○松館政策企画課特命課長 1つはですね、昨年の部会のスケジュールが10月が最終回というところでありまして、今年は9月っていうところで、1ヶ月早かったというところがあります。

○吉野英岐部会長 去年のスケジュールであれば、最終8回か9回の結果も部会で確認できたんだけど、という感じですかね。やむを得ないっていうわけですね。

○和川央委員 よろしいですか。

○吉野英岐部会長 和川委員。

○和川央委員 今の御質問に関連してなんですけれども、あくまでも手続きのお話をする、基本的にワークショップは、この部会の審議に活用するというところだったということ、参考資料にあるものの、分析部会の報告書に掲載されるっていうところを考えると、厳密に言うと、部会が終わってから結果が出てきて、それが報告書に載るといのはあまり適切ではないと思います。

ただ、ワークショップはたくさんやってもらって欲しいですし、その結果も報告書には載せて欲しいので、このようなやり方を今後も認めることとし、ワークショップの開催を

どんどんやってもらう方を優先するという考え方もあると思いますので、ここは参考資料と割り切って部会を経ずに掲載するのか、あるいは、やっぱり部会の審議に反映させるものなので、そこはきっちりと部会にあげるようにしようかとするのは、少し考える必要があると感じました。以上です。

**○吉野英岐部会長** 事務局いかがでしょうか。

**○八重樫政策企画課評価課長** ありがとうございます。こちらのワークショップについては、4回以上ということで、まずお願いをしているものですが、地域づくり団体等との調整をNPOさんがやっている中で、やりたいと手が挙がっているということで、我々が期待している回数以上のものやっていたらいいなという感じがございます。今後の持ち方につきましては、ちょっと改めて検討させていただきます。和川委員のおっしゃる通りに、部会までという区切り方もあろうかと思っておりますので、その辺はNPOの話も聞きながら、あり方を検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。その他に御意見、御質問ありますか。谷藤委員、お願いします。

**○谷藤邦基委員** 第5回、6回のところを見ていて、地域の安全のところ、空き家の話が出てきていたんですね。これまでの一連の部会審議の中で、地域の安全のところは、自然災害であるとか、交通事故あるいは不審者といったような話はあったけど、あとは熊、イノシシの類ですか。また、雪かきとかいろんなことが、話題に上がってきたけど、空き家というのは出てなかったなと思って、逆にちょっとあつと思ったところではあります。

なので、そういう意味では、実は部会審議の着眼点を提供してくれる貴重な材料でもあるので、一通り我々自身が何かの形でコミットしたっていうのがあった上での方がいいのかなとはちょっと思ったところなんです。

それで、改めて空き家の話なんですけど、実は私自身の生活圏の範囲で言うと、ちょっと前まで空き家増えてきたなと思っていたんですけど、実はここ最近ですね、急速にその空き家を取り壊されて、結構、新築住宅が建ち始めたんですね。だからいろんな意味で整理が進んできたのかなと思っていたけど、そうでもない。矢巾だと盛岡のベッドタウン的なところもあるんで、そこでもまだ空き家、ゴミ屋敷云々の話になるとすると、そういう動きも一部なのかとかですね、いろんなことを思った次第です。

いずれ、そういった辺りの皆さんのお話を伺う機会もあまりなかったんで、できれば一通り何と言いますか、ここでもんでから、何かの形でこういうふうにするのがいいのかなと思った次第です。以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。内容の話というよりは、このワークショップの持ち方の話がありましたけど、ワークショップはこの後開催されることは確実ですので、第7回目以降についてはですね、結果がまとまり次第、一旦委員の方に、結果を紙ベースでいいと思いますので、出していただいてから最終報告書を出すと。反映し切れるかどうか

かちょっとわからないけれども、全く未見のまま報告書に載せるというよりは、一旦は委員の目を通していただいてということで、もしかしたらそれが所感のところに反映できるかもしれないっていうこともありますので、ちょっと取りまとめの時間がかかるかもしれませんが、速やかに結果をまとめていただいて、委員の方に結果概要をお届けしていただければと思いますけど、できそうですか、どうでしょうか。

**○松館政策企画課特命課長** 承知いたしました。委託しているNPOから報告が上がってきましたら、こちらで確認して、先生方に一度メール等で御連絡をして、お目通しをお願いしたいと思います。

**○吉野英岐部会長** よろしくお願ひします。空き家の問題は確かにね、ありますよね。一応法律で特定空き家をやっているから、ずっと放置すると行政権限で、実際、取り壊しができるようになりましたけれどもね。それから、何かいろいろ相続の方、来年4月から変わって、相続登記の義務化になるので、多少変わってくるかもしれないですね。ありがとうございます。山田委員。

**○山田佳奈委員** 2点ほどです。まず1点目です。今ですね、御説明いただきましたが、とても興味深く伺ったんですけども、地域の団体さんでやりたいという興味を持ってくださる団体さんは、これ今でも増えているということでよろしいでしょうか。

**○吉野英岐部会長** 事務局どうぞ。

**○八重樫政策企画課評価課長** 過去のお話っていうのはちょっと承っていませんでしたので、比べてということとはちょっとすみません。わかりかねます。

**○山田佳奈委員** ありがとうございます。今伺っても少なくともやってみたいという団体さんが、地域にたくさんいらっしゃるということは、とてもいいと思って、よかったなところでもあります。これ、前回、前々回ですか。若菜委員さんがおっしゃっていただきましたように、前に参加した方がこれをもう1回やりたい、よかったっていうふうにおっしゃったっていう、報告くださったと思います。

こういうふうに地域の方々が、こういう機会を、やはり大切にというか、ポジティブに捉えていらっしゃるというのは、その意味でも、先ほど委員の皆さんおっしゃったように、なるべく生かせるような形で、できたらいいだろうと思っています。

もう一つ、今回の所感として、子育ての方ですね、居場所ですとか、学校、家以外の勉強する場所、素晴らしいなと思って拝見しましたが、補足調査の方でも、居場所ですとか、その一定のところ、中位ぐらいですかね、位置していたように記憶していますし、これまで、ワークショップの中で出てきたような御意見は、家、御家庭ですとか、学校以外の場所でもその地域社会での子どもさんの過ごせるような場所という、そうした論点というのも、今、サードプレイスという言い方っていうのもよくされるようになってきていると思いますけれども、こうした観点というのも、これから必要になってくる一つかなと思って

拝見していました。所感になりますけれども、以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。ちょうどね、力を入れているところなのでね、県も。様々な御意見、反映できるように、まずはいろいろ御意見をいただくってところから必要ですけれども。そういった意味では、各分野から意見が出ているということで、やってよかったのではないかと思います。ありがとうございます。その他に。ティ一委員。

**○ティ一・キャンヘーン委員** それでは、3ページ目の7ポツ目。この協力力ってというのはどういう意味かわかりますか。

**○松館政策企画課特命課長** 私もこれ、協力力と書いてありましたので、ちょっとNPOに確認しようかなと思っていましたが、この報告書の最終版が来たんですけれども、その中で協力力という言葉が、実は削除されて報告されてきましたので、誤植だったのかもしれないっていうところで、そこまでは確認いたしませんでした。

**○吉野英岐部会長** あんまり使わない日本語だし、後半ともつながりがよく見えにくいので、確認ができるんだったら、ちゃんとしてみてください。

**○松館政策企画課特命課長** それから、先ほど和川委員から質問の学生の内訳なんですけれども、中学生と高校生も含まれているということだそうです。

**○吉野英岐部会長** 学校や家で勉強する場所が欲しいというのは、中学生の意見かもしれないってことですかね。素晴らしいなと思います。何か図書館とかって、席がなかなか取りにくいとかそういうようなイメージかなと。実際に図書館等を御利用されている人達、アイーナでいろいろ拝見しますけれども、高校生が多いなって感じはしていますので。彼らがそういう場所をどれだけ確保できるかっていうのも確かに必要なことではあるなと思っています。竹村先生、何か御感想ありますか。

**○竹村祥子委員** 私も10代の方たちの御意見をずっと追っかけて見ていたんですけれども、なんか子育てっていうと、小さな幼稚園、小学校くらいの人たちの問題というふうにちょっと考えがちなんですけど、10代の人たちは自分たちの教育現状について、率直に書かれ、意見が出されているので、これは、やはり聞き取りではありますけれども、支援策へつなげるということからすると、よいヒントになるなっていうふうに見ておりました。

学校以外で、集える場所とか、勉強ができる場所っていうのは、確かに、盛岡、中央地域の場所っていうことを考えると少ないかなというふうに私もこの意見を読ませていただいて、思い至ったところです。感想としてはそのようなところです。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。すぐにどうこうできるものばかりではないんですけれども、せっかく部長さんも頭から今日出席いただいていますので、こういっ

た御意見については何か感じるころがあればお願いしたいと思います。

**○小野政策企画部長** ありがとうございます。今日の議題の2(3)のところ、補足調査の議論をしていただきますが、それについても書かれているんですが、やはり県民計画といえますか県政を考える上で、10代、若い人たちの意見というところがすごい重要になっているなあというふうに思います。フューチャーデザインでもないんですけど。

そういったやり方もある一方で、現にこれからの岩手を担う人達の意見はどうか、それをやっぱり率直につかむとといったことが重要とと思っていますので、このワークショップは、非常に貴重な機会になっていると思います。先ほど竹村先生も、10代を中心に御覧になっているというお話ありましたが、我々もこういったなかなかアンケートだけでは取れない、まさに重要な情報というふうに思っていますので、しっかり見て、県政に反映させるようにしなきゃいけないなと思いました。ありがとうございます。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。それでは一通り御意見を聞きましたけれども、特に補足、追加がなければ、次の議題に移りたいと思います。それでは今日の本題ということになりますけれども、議題の2番目ですね。令和5年度の県民の幸福感に関する分析部会の年次レポート(案)について、御説明をお願いします。

**○松舘政策企画課特命課長** それでは資料2によりまして、令和5年度年次レポート(案)について御説明いたします。前回の第4回部会におきまして、年次レポート(素案)という形でお示しをいたしまして、御意見を伺ったところです。前回の部会の後、事務局によりまして、修正作業いたしましたところが、大きく2点ございます。

修正作業の1点目ですが、前回の部会でレポート全体を通じまして、追記ですとか修正等の御指摘をいただいたところです。具体的には、分析の際に平成31年を基準年としている理由の追記ですとか、県民意識調査の集計に当たって、わからないを選択した場合の集計からの除外といったようなことも書いた方がいいという御指摘をいただいています。

また、その他に表現の修正等についても、たくさん御指摘をいただきました。いただいた御指摘については追記、修正等を適宜加えております。委員の御指摘を反映させておりますので、御確認をお願いします。

それから、大変申し訳ないんですけども、資料の印刷後に実感の変動要因のところ、修正したほうがいいかなというところが一点ございました。資料2の31ページを御覧いただきたいんですけども、地域社会とのつながりのところの分析でございますけれども、②基準年と比較して分野別実感が低下した要因のところ、4つ目の黒ポツです。低下した要因を記載しているところですけども、ゴシック体の部分ですが、当該分野の実感が低下した要因は、隣近所との面識・交流が少ないこと、と、自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)が少ないこと、及び地域の行事への参加、お祭り、スポーツ大会などが少ないことと記載しておりますが、要因の三つとも最後が少ないこととしておりましたが、こちらを減ったことという形で修正をしたいと思っております。こちらですが、これまでの部会でも変化を見ているということで、昨年度までも少ないというより減ったことという表現にしておりまして、第1回の部会の資料の中でもそのように整

理しておりましたけども、私がこちらの年次レポート（案）をまとめる作業の際に、少ないというような形で記載しておりましたので、隣近所との面識・交流が減ったこと、自治会・町内会活動への参加環境美化、防犯・防災活動などが減ったこと、及び地域の行事への参加、お祭り、スポーツ大会などが減ったこと、と修正をしたいと考えております。こちらが修正作業の全体としての1点目ということになります。

それから、修正作業の2点目ですけれども、資料2の49ページにお進みいただきまして、追加分析の子育てのところになります。第4回部会後に、ティー委員、和川委員に改めて御指導いただきまして、記載内容の整理をしております。主な変更点です。まず、49ページ、タイトルですけれども、前回の部会では、子育て分野に係る分析としておりましたけれども、子育てに関する分野別実感の推移と変動要因に係る分析と修正をしております。50ページにお進みいただきまして、2の分析内容のところですが、前回の素案の記載を詳しくするとともに、県民意識調査及び補足調査の概要、設問項目をそれぞれ表1、表2という形で整理をしております。51ページですけれども、3分析結果の構成につきましても、51ページ、(1)分野別実感の推移、進んでいただきまして、52ページ、(2)実感平均値の属性分析、進んでいただきまして、56ページ、(3)分野別実感の回答理由分析、それから、54ページの(4)分析結果のまとめという形で修正をしております。行ったり来たりで申し訳ありません。51ページに一旦お戻りいただきまして、3分析結果の(1)分野別実感の推移におきましては、子育て分野全体の推移について記載をしております。52ページに進んでいただきまして、(2)実感平均値の属性分析におきましては、52ページから56ページ、実感平均値の属性別の推移について記載をしております。

前回の部会でお示した素案におきまして、53ページの図4、20代、30代の実感が比較的低いこと、それから54ページの図6で、子どもはいない人の実感が低いということをお示ししているところですが、第4回部会の際にティー委員から、年代、子どもの有無別での集計を加えてみてはどうかと御助言をいただきまして、55ページの図7を新たに追加をしております。55ページの図7を御覧いただきますと、全ての年代におきまして、子どもがいるに比べまして、子どもはいないが低い値で推移している傾向にあります。また、30歳代において、その差が大きいという状況です。こちらの図7を加えております。

56ページにお進みいただきまして、(3)分野別実感の回答理由分析というところになりますけれども、こちらにつきましては、補足調査による変動要因を記載をしております。前回の素案からの大きな変更はございません。それから、修正だったんですけれども、56ページの表3、それから57ページの表4とございますけれども、それぞれ番号がずれておりました。表4と表5となります。申し訳ありませんが、修正をお願いいたします。

続いて、57ページ、(4)分析結果のまとめとしまして、結果のまとめを記載しております。白丸が3つございますけれども、3つ目に、年代別と子どもの有無別に多重クロス集計を行ったところ、全ての年代で子どもがいるに比べて、子どもはいないの子育て分野の実感が一貫して低い値で推移しています。年代別では20から29歳、30から39歳、子どもの有無別では、子どもはいない人の子育て実感が低い傾向にあることから、子どもはいない人の子育て環境に対する評価が20から29歳、30から39歳の出産に関する状況に影響を与えている可能性が考えられます、との記載を加えたところです。こちらは、前回の部会にお示しました素案におきましては、20代及び30代において子どもはいない背景に、子育てに

関する実感が低いことが関係している可能性が推測されます、と記載をしておりましたが、委員の皆様から記載内容について、御指摘をいただいた部分で、今回の案においては、このような記載としております。

白丸の4つ目から6つ目については、補足調査からの変動要因に関する部分について、前回の部会でお示した素案と、ほぼ同内容の記載となります。以上が追加分析1に関する修正となります。最終版に向けまして、追記、修正等が必要な点がありましたら、御指摘をお願いしたいと思います。こちらが前回の部会后、事務局による大きく修正作業をしたところとなります。

それから、本日、委員の先生方に御相談したいところが一点ございます。資料2の77ページをお開きください。参考4、部会審議における主な発言（提言等）のところです。今回の案におきましても、前回の部会でお示した素案と同様に空欄としております。前回の第4回部会の審議の際に、昨年度のような事務局による委員の発言の取りまとめではなく、委員に所感を書いてもらってはどうかと、御意見をいただいたところです。本日の部会で御同意を得られれば、委員の皆さんに所感を書いていただくということで、今後作業を進めたいと考えております。

具体的にはA4判で1枚、文字数ですと、1,000字から1,400字程度を目安に所感をまとめていただければと思っております。締切りを10月2日で一旦設定させていただければと思っております。また、参考といたしまして、事務局から、第1回から第4回までの各委員の発言を委員ごとに抽出したものを送付したいと思っております。以上が、1点御相談でございます。

それから、官庁表紙でつづいた資料をお手元に配付しております。こちらが年次レポート（案）の資料編となります。最初のページが目次になっておりますので、こちらをお開き願います。目次の参考資料1と2が県民意識調査の調査票と集計結果となっております。参考資料3と4が補足調査の調査票と集計。参考資料5と6が県民意識調査の属性別の平均点の推移ですとか、その分析結果。参考資料7が補足調査の取りまとめ。参考資料8が先ほどありましたけれども、幸福について考えるワークショップの結果の取りまとめとなっております。ページ数が686ページで、ボリュームがございますけれども、昨年度とほぼ同様にまとめたものとなります。

基本的にこれまでの部会でお示した資料を取りまとめたものとなりますけれども、44ページをお開きいただきたいと思っております。44ページから53ページまで。こちらの部分は、県民意識調査のつながりに関係する設問の集計結果となります。こちらはこれまでの部会でお示ししていなかった資料となります。昨年度のレポートの資料編にも載せておりましたので、今年度のレポートにも載せております。

それから、進んでいただきまして627ページ。627ページから674ページまで、こちらが令和5年補足調査で追加しました、いわゆる自由記載欄をまとめたものとなります。こちらを今年度から新たに追加しております。第3回の部会で御審議いただきましたけれども、個人情報ですとか、個人の特定につながるおそれのある記載は除きまして、このような形で添付をしております。資料編については、このような形で整理をしたいと考えております。

それから、続いて本日の資料にお戻りいただきまして、資料2-2、年次レポート（案）

の概要版となります。基本的な構成は、昨年度の概要版と同様となっております。11月の総合計画審議会では、こちらの資料を用いまして、吉野部会長より御報告ということ想定しております。以上が、年次レポート（案）に関する御説明となります。

今後の年次レポート（案）に関する作業スケジュールですけれども、先ほど御相談いたしました委員の所感、こちらの作業の締切りを御同意いただければ10月2日に設定して、併せて本日の部会後に気付いた年次レポート案の修正なども、同様に10月2日頃を目途に事務局まで御連絡いただいて、その後、本日の部会でいただいた御指摘も含めまして、事務局で修正作業を進めて、10月中に部会長に最終確認をいただいて、11月の総計審での御報告、総計審当日の日付での公表という形で作業を進めたいと思っています。事務局からの説明は以上となります。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。最終版にほぼ近いものが今日出されていますので、この後、御意見いただきますけれども、気がついた点、今回、対面でやるのは最後になりますので、是非是非、細かいところでも結構ですので、御指摘いただいて、直せるうちに直していきたいと思っています。最終的な審議会の日付って言われましたので、11月22日が総合計画審議会ですね。11月22日付けの報告書というか、レポートになる予定で進めていくことになると思います。

では、それぞれ全体を見て、かなり特定の部分でも構いませんけれども、御質問御意見があればお願いしたいと思います。どなたからでも結構ですけれどもお気づきになった方からいかがでしょうか。ティー議員。

**○ティー・キャンヘン委員** 資料2、本編の1ページ目。第1章の内容の一番最後ですけど、新型コロナ感染症については、多分、59ページ。

**○松館政策企画課特命課長** 大変失礼いたしました。

**○吉野英岐部会長** すごい間違い探しゲーム見たいですけど。まずは、そこ、57ではなく59ですね、現行ですとね。

**○ティー・キャンヘン委員** 次に、先ほど説明した31ページ。3つ目のポツについて、変更するが減ったというふうになるといふふうにおっしゃっていただけんですけど、表19はそのままでいいんでしょうか。

**○松館政策企画課特命課長** 併せて表19も修正します。

**○吉野英岐部会長** 少ないところを減少に。文章と表の両方修正。とりあえず、ティー先生の御指摘は以上のところですね。修正をお願いします。その他にお気づきになった点。谷藤委員、お願いします。

**○谷藤邦基委員** 細かいところを幾つか。今のティー先生の御指摘と同じような話になっ

ているんですが、ページがなんかの拍子でずれているんですよね。何ページ参照というのが結構ずれていますよ。

例えば20ページのところで、①主観的幸福感の推移で、P 5 図 1 及び図 2 となっているのですけれども、P 6 になるのですよ。

それから、次の②のところも1ページずれている。だから、1ページずつずれているんですよ。だから、また多分ずれる可能性があると思うので、最後の段階で1回きちっと見ていただければなと思った次第です。

**○松館政策企画課特命課長** 承知いたしました。申し訳ありません。

**○谷藤邦基委員** その関係で言うとはですね、これ見栄えの問題って言えば見栄えの問題なんですけど、表 5 の方も、多分、同じページの裏表になって見にくいんですよ。だから右側にあるようにしてもらわないと。特に、左側の属性の情報が18ページに行くと無いので、これだけ見てると、何だか全然わけがわからない。だから右側にするか、万が一印刷をするのであれば、A 3 で横長に見られるようにするかしてもらわないと、ちょっとこれでは大変です。正直なところ。

これも見栄えのところなんですけど、19ページで色の使い方ですけどね、低値が黄色で、あと、高値がペールオレンジかな。前のページとの比較でいうと、低値はブルー系の色にしたほうがわかりやすいんじゃないかなと思いました。これ、だからどっちでもいいと言えばどっちでもいい話なんですけど、要するに見え方の問題。

**○吉野英岐部会長** 寒い色ですか。寒色というか、暖色と寒色があれば。

**○谷藤邦基委員** そういう使い分けはされた方がいいのかなと。それから24ページなんですけど、これも中身の問題っていうよりは、読む方が楽かどうかというレベルの話なんですけど、②のところの最初のポチのところなんですけど、実感が有意に上昇した属性は、表 9 のとおり幅広く存在しており、問題はその後なんです。いろいろ項目が列挙してあって、で、上昇幅が大きい傾向にあります、という書き方になっているんですけど、二年前ぐらいにちょっとお願いした記憶があるんですけど、項目を列挙していった最後に何々だっていうのは、非常に読む方がストレスを感じるんですよ。

つまり、読んでいるこの項目は、何を意味しているのってわからないんで、だから、前にお願した時には、最初に以下に列挙する項目が何であるかわかるような書き方をして欲しいということをお願いして、だから、例えば今回の報告書でもまとめの辺りは前と同じような書き方になっているから、そういう書き方になっているはず。列挙が始まる前に、以下の項目が何であるか、わかるような書き方。

それで、ここもそうした方がいいのかっていうと、この場合はそこまでは必要なくて、年代別っていう最初のところですね、列挙が始まる前、そこに、特に、と入れてもらうだけで大分読みやすくなります。話の流れが変わっているわけではないんで。要するにみんな有意に上昇しているんですよ。その中でも、以下に列挙している項目が特に上昇幅が大きいと言っている。だから、その最初に、特に、と入れてもらうだけで大分読みやすく

なります。なので、その程度の手直しでいいのでちょっとそこは検討してみてください。

その後は、実はみんな似たような話が出てくるので、全部、特に、と入れてもらえるとわかりやすいかなと思っています。ただ列挙する項目が少ないと、そこまではする必要はないんで、特にここは何とかして欲しい。こういうものは流れの問題。というのは、読む方が読みやすいかどうかで。書いている人は、わかって書いているからあまりストレス感じないですよ。ところが、初めて読む人は、えらいストレスです。ちょっと余計な話をするんですが、行政系の人達は法律を読み慣れているから、法律で大体こういった書き方しているんですよね、条文で。だから何かそういう書き方が慣れているんでしょうけど、一般人は慣れておりませんので、是非、御配慮いただきたい。

それから、29ページのところ。③の一貫して高値又は低値のところ、4つ目のポチで、その2行目、自由の時間が、となっているんですが、自由な、ですよ。細かいところですけども。

**○吉野英岐部会長** 下の太文字のところは、な、になっている。

**○谷藤邦基委員** そうなんですよ。だから、ここは全部、な、になっているし、その選択肢も、な、になっている。いずれにしても、な、にしておいた方が、よろしいかなと。

それから、ちょっとここは、議論が必要かもしれないなと思ったところが1つあって、35ページの表24ですけども。表の24の仕事のやりがいの実感が低下した要因とその具体的な内容、というところの3番目ですね。

将来の収入・給料の額の見込みに不安があること、の具体的な内容として、体調不良っていうのがあるんですが、低収入っていうのはそのままの話なのであれなんですけど、体調不良っていうのが、実際そういう記述があったのは事実だとして、ここに具体的な内容として掲げるっていうことは、ある意味、代表性のある項目だということと思うのですが、それで、体調不良でそういう不安があるっていうのは、一般的に載せてしまう程のことかどうかっていうのは、ちょっとした特定の人、そういう人がいるかもしれないけど、一般的に書くことかなと。書いてあったとしても、それは嘘ではないし、不適切とまでは言えないんだけど、書いた方がいいのかな、どうなのかなと、ちょっと引っかかったところでした。ちょっとこれは後で皆さんの御意見を伺ってからにしたいと思います。ちょっとここは引っ掛かりました。

あとですね、50ページ。分野別実感の平均値の属性分析のところの2段目の段落の最後に、括弧してリッカート尺度と注意書きが書いてあるんですが、この注意書きが必要なのかなのかということですね。要するに誰でも知っているような言葉であれば書いておいてもいいと思うんですけども、ここに書いてある説明で、何をやっているのかっていうのはわかるので、改めてリッカート尺度っていう言葉を入れる必要があるのかと。もし入れるとすれば、リッカート尺度の言葉の説明が欲しいと思うんですよ。私はよくわからない言葉です。一応調べたので、アンケート調査の分析で使う言葉らしいっていうのはわかったけれど、なくても別に、理解に支障はないなと思ったので、ちょっとここに入れるべきなのかなのか。

それから、56ページ、57ページの修正後の表4と5ですね。ここ、ゴシックと明朝で太

字になっていないのがあって、混在しているのはなぜなのかなという、特にその説明がなかったと思うので。ここがなぜなのか。意味があって分けているのであれば、説明が欲しいし、そうでないのであれば全部ゴシックにしちゃうか、ていうところですね。

**○吉野英岐部会長** そうですね。確かに。意味を見出すのは難しそうではありましたがけれども、何か理由があるのかもしれない。

**○谷藤邦基委員** あとは64ページのところですが、太字で書いている(1)、(2)の表題の後に、表1参照とか表2参照とあるんですが。これ見える範囲にある表ではないので、例えば(1)であれば、66ページ参照とされた方がよろしいかなと。それぞれにページ数を表示するというところをしようというところなんです。私が気付いたのは以上です。

**○吉野英岐部会長** 様々ありましたけれども、すぐにお答えできるのであれば、事務局からお願いします。

**○松館政策企画課特命課長** ありがとうございます。谷藤委員の御指摘については、たくさんありましたが、基本的には直したいと思います。

56ページと57ページの子育てのところの、修正した表4と表5のところですけども、ゴシックと明朝で書き分けていたところですけども、(4)分析結果のまとめのところに出てくる要因についてはゴシックで書いておまして、それ以外のところは明朝という形で、ゴシックで強調させていたところがありましたので、表の外に注意書きか何か、そういった形で書くかどうか検討したいと思います。

それからあと最初のほうですね、17ページ、18ページのところの表はすみませんが、当初は見開きで、2ページで1つの表を見せるようにレイアウトしていたところですけども、ずれてしまって裏表になってしまいました。ここは、他のページとも調整して、見開きで見えるようにしたいと思います。

それから、リッカー尺度について記載しておまして、50ページの真ん中辺ですが、ここは和川委員からの提案で入れたところですけども、いかがいたしましょうか。

**○和川央委員** ありがとうございます。すみません。私は、論文を書くときは、必ず尺度の名称を入れるという癖がありまして、何の気なしに入れてしまったものです。おっしゃるように、ここの趣旨は、別に何かどうかというよりは、事実をわかりやすくお伝えすることであるので、削除しても差し支えないかなと思います。

**○小野博政策企画部長** 一方で、こういうやり方が一般的にありますよ、ということであれば、入れて説明をするというやり方もあるのでしょうかね。

**○和川央委員** そうすると、先に書き方がリッカー尺度、括弧何々と書いていって、となるのだと思うのですが、どちらがわかりやすいんだろうというときに、まあ、判断はお任せしますけどもね。

○吉野英岐部会長 谷藤委員、どうぞ。

○谷藤邦基委員 要は感じるから感じないまで5段階に区切って、ここだけの話ではなくて、最初からそうなんですよね。だからもし入れるのであれば調査の分析の手法かなんかの所を書いちゃうという手もあるかもしれない。逆に言うと、その分勉強になるということもあるんで。いや、私も初めてああそうだったんだと思ったところもあるので。だから最初の話で。

○吉野英岐部会長 ここだけの話じゃないから、最初の分析の手法のところをやっちゃうかということもできますか。これ等間隔の重み付けの話でしたっけ。リッカートって。

○和川央委員 そうです。本来は間隔尺度じゃないんだけど、間隔尺度として便宜的に分析しますよと。これが、今、小野部長がおっしゃったように、何か我々が特別にやっているものではなくて、学術的にも採用されているものだよというのがわかりやすく、また、ここは追加分析ですから、この分析だけ出回る可能性もあるとも思いまして、そのまま記載してしまったところがございます。

○吉野英岐部会長 これ別に、1、2、3、4、5って絶対振らなきゃいけないってことじゃなくて、1.7とか2.3とか、その重みを変えて、5段階を数字化するっていうのが理論的には可能なんだけれども、今回の尺度の考え方として、捉えられる感じを全て同じ間隔で数値化するために、1、2、3、4、5って振っているっていうことをリッカート尺度ときつと呼ぶんでしょうけど、私も昔、学生時代に習いましたけれども、そこまで言ったらくだいような気もちょっとしますけど、説明する必要ないなら、前の方で出すってこともあります。はい。谷藤委員、どうぞ。

○谷藤邦基委員 2ページに、選択肢の配点と枠囲みでわざわざ書いているので、もし、そのリッカート尺度を入れるなら、この辺ですよね。

○吉野英岐部会長 和川委員、どうでしょう。前の2ページに出すという意見。よろしいですか。ティー先生もいいですか。統計の専門家の意見も聞いてみますが。

○ティー・キャンヘン委員 何て言うんですかね。私はどっちでもいいけど。ちゃんとここに書いてあるので、もう変なことはしていませんよっていうことは。

○吉野英岐部会長 書くなら2ページ。入れなくてもわかるけど、入れておけば、この尺度を使ってんだっていうことぐらいはおわかりになる。わからなかったら自分で辞書引いて調べてねっていうくらいですよ。

いくつかあるんですよ、尺度法って確か。最初に習った気はするんですけど、私も。その一つを使いますよっていう断り書きのようなもの。ありがとうございます。その他

に事務局から何か御指摘された件でありますか。

○**松館政策企画課特命課長** その他の部分についても、基本的に委員の御指摘の通り、修正を加えて直したいと思います。

○**吉野英岐部会長** わかりました。本当にタイミングが最後ですので、気が付いたことは細かいことで、全く構いませんので。山田委員、どうぞ。

○**山田佳奈委員** 私からは1点です。それからあとで御相談、確認だけ。最初に1点の御提案ということで、資料2の57ページです。いろいろ御検討いただきありがとうございました。(4)分析結果のまとめの3つの白丸の3つ目の下から2行目。先ほど御説明いただきました、20から29歳、30から39歳の出産に関する状況と書いていただいている部分ですけども、ここは文脈から言って、子どもを持つこと、といった書き方で良いのではないかなと。ここでは男性、女性を見ているわけではないので。というのが1点でした。新聞等のアンケートなどでも、そうした言い方がされているかと思えます。それが1点です。

○**吉野英岐部会長** はい。もう1つ。どうぞ。

○**山田佳奈委員** 所感ですね。締切りって、10月2日ですよ。

○**吉野英岐部会長** 最初から予防線を張るような御質問ではございますが、それは厳守なのかという御質問でした。

○**松館政策企画課特命課長** 事前に吉野先生と打ち合わせをさせていただいて、その時に目安はだいたい10月2日頃かなというお話でした。その日に間に合わなくても多少は大丈夫かなとは思っております。

○**山田佳奈委員** すみません。念のため。もちろんデッドラインというか、これ以上は遅れると困るってことだとすれば頑張ろうかなってことでしたので。他の宿題もあるものですから。ありがとうございます。以上です。

○**和川央委員** 私からもよろしいでしょうか。

○**吉野英岐部会長** 和川委員、どうぞ。

○**和川央委員** それでは私も所感のところ少し確認させてください。お話しいただいたですけども聞き逃してしまったので、皆さんにとっては確認になってしまうのですが、分量、ボリューム感と、あと、ですます調とかの書き方はどうでしょうか。また、所感の趣旨なのですが、前の研究会報告書のように、部会活動を振り返ってという意味での所感なのか、今まで発言をしてきたことで、どうしても残しておきたいことを、発言録を自分で

もう1回書き直せよっていう趣旨の所感なのか、この所感の趣旨というかトーンがもしも何かイメージがあるのであれば教えていただけると、山田先生も書きやすいんじゃないかなと思います。

○吉野英岐部会長 何か事務局ありますか。

○松館政策企画課特命課長 まずボリュームのところでしたけれども、A4で1枚分ぐらいかなというところで、文字数でいうと1,000字から1,400字程度と、それが一つの目安かと思っております。それから、所感の趣旨のところなんですけれども、こちらで考えていたのは、基本的には今年の部会を振り返っていただいて、という形で書いていただければなど。そういった中で、このレポートには書いていないけれども、委員の先生方には、こういったことが大事ではないかと思っているとか、そういったところもあれば、併せて記載していただくのがいいのではないかと、こちらでは思っているところです。

○吉野英岐部会長 文体を言われましたけど、本文の文体はですますで統一されていますよね。だから、必ずですますにしなくてもいいんだけど、所感だけを、である調で書くとなんか偉そうに感じるなどと思って、強いイメージがあるので。本文が、ですます調で行っているところを考えると、所感もですます調でいいのではないかと、個人的には思っていますけれども、どうでしょうか。御同意いただければ、ですます調で、所感も書いていただくと。そうするとちょっと文字が稼げる所もありますしね。

さっき言ったように締切りについては、11月22日に総合計画審議会で御報告しなきゃいけないというのがありまして、当然その前には、これ委員に渡すんですけど。何か送信するんですけど。

○松館政策企画課特命課長 大体ですけれども、総合計画審議会の担当者に確認してみたところ、総合計画審議会自体の資料の締切を11月初めにしたいという話はしておりましたので、できれば10月中のうちにいただいて、フィックスしてしまいたいなど。

○吉野英岐部会長 それで、決裁があるんですよ、県庁の中で一応。

○松館政策企画課特命課長 あとは吉野部会長に最終確認をしていただいて、11月の頭にはレポートを確定させたいとは思っています。

○吉野英岐部会長 ですので、10月頭。

○松館政策企画課特命課長 もうちょっと後くらいでも。

○吉野英岐部会長 期待を持たせないように。

○和川央委員 広井先生の所感はどうされる御予定でしょうか。せっかく関わっていただ

いているので、書いていただきたいなと思いつつ、お忙しいでしょうし。お考えが決まっているのであれば、お伝えいただければと思います。

**○松館政策企画課特命課長** 広井先生については、今年度の部会には御参加いただけない状況でして、資料等は随時送らせていただいたんですけども、正直どうしようかなというのは、今思っていたところです。

**○吉野英岐部会長** 広井先生、白書で色々書いてもらっているんですけど。カラー版の普及版。あっちで頑張ってもらえばいいか。

**○和川央委員** 幸福白書では初回に御寄稿いただいているのですけれども、それ以降の御寄稿はないです。

**○吉野英岐部会長** また書いてもらおう。寄稿してもらいますか。こっちに。

**○和川央委員** 前の研究会のように1つ節目があつてついでというのであれば、書いていただいた方がいいのかなと思うのですが、これが毎年続くとなったときの負担感を、どうとらえるかというのは、ちょっと微妙なところかなというのもあつて、どうお考えなのかなと思ったのですが、直接広井先生にどうされますかと聞いてみるという手も、もしかしたらあるのかなとは。特にこの部会でこうして欲しいという意見がないのであれば、御本人に聞いてみる手もあるのかなとは思っています。

**○吉野英岐部会長** 強くこちらから書いてくださいと言わなければ、なかなか、はい、書きますってことにはならないんじゃないかなって。実際出席する機会がなかったってことを考えると。

**○小野政策企画部長** オブザーバーということもありますので、委員の皆さんとはちょっと立場が異なるかと。お声がけだけはするというところで。

**○吉野英岐部会長** オブザーバーというかアドバイザー。ちょっと委員とは一応なんていうか、立場が若干異なる。というような形で任命する職名もちょっと違っているんで、同じには扱わなくていいかなと思います。はい。一応1回聞いてみますか。

**○松館政策企画課特命課長** 1回御連絡をとってみます。

**○吉野英岐部会長** 各委員にはこのようにお願いをしたところではあるんですけども。

**○松館政策企画課特命課長** 承知しました。一旦御連絡をとってみたいと思います。

**○吉野英岐部会長** 強制ではありませんということで、というくらいですかね。

さっきの出産のところなんですけど、出産というそういう行為だけを指しちゃうと、女性に限られちゃう。子どもを持つということであれば、男性も女性も入るというニュアンスが伝わるのではないかということで、

○**松館政策企画課特命課長** 委員の先生方から特に御異論がなければ、そういう形で修正したいと思います。

○**吉野英岐部会長** はい。その他細かいところでお気付きの点。竹村先生、どうぞ。

○**竹村祥子委員** 私も山田先生が今御指摘のところを指摘しようと思ったので、重要なもういいかなと思ったんですけど、54ページ、55ページの図なんですけれども。これ見開きで多分、読むことができるようになりますと思います。そうすると、54ページの方の子どもはいないの破線は茶色なんですけど、55ページの図の方は、子どもがいないが青になっているんですね。これ、ちょうど見開きなので、茶色を子どもがいないを、同じように合わせていただいた方がいいかなというふうに思いました。はい。茶色にこだわらないんですけど、同じ色にしたらどうだろうか。

○**松館政策企画課特命課長** 承知いたしました。色を調整して、同系統の色で直したいと思います。ありがとうございます。

○**竹村祥子委員** 以上です。

○**吉野英岐部会長** ありがとうございます。その他、皆さん、まだ見ていただける間に、ちょっと私の方から、申し上げます。

50ページの調査の追加分析のところですね。これ、補足調査の表1とかあるんですけど、本文の方の2番目の分析の内容の2行目で、後ろの方で、この補足調査、毎年固定の約600人ってということで、ここは約を入れたんですけど、表1とかには特に入らないんですよ。どうして約が片方だけ入って、片方なくなっちゃったのかなっていう。実際は600人になっていないんですよ。下に書いてある通り、567人だったりするんで、調査人数も概ね600人とか、約と書くか概ねと書くかちょっと微妙ですけども、両方とも同じ表現にしておいた方が、600人に固定したりとかではあるんですけども、諸般の事情で、若干ずれるってことをわかってもらえるようにということが1点です。

それから、下のアスタリスクマークの2番、令和5年調査は、というのが、これアスタリスクは両方にかかって、どっちの調査にもかかっているんで、令和5年の両方の、両調査は、とかちょっと入れると令和5年調査って何だっというふうに、固有名詞みたいに見えちゃうといけないので、補足調査、県民意識調査のそれぞれ両方っていうか、そこはちょっと、1文字2文字補えば、固有名詞ではないということがわかるかなというふうなのが、50ページに関わる場所です。

それから、実は追加分析1、子育てに関する分析、分野別実感はかなり私としては、興味深い結果が出ているところで、実際子どもをお持ちの方よりも、子どもがいないとお答

えされている人の方が低いんですよ。これって、特に文章中にあまり出てこないんだけど、子育てに関する分野別実感ってのは、実はポジティブな方なんですよ。その子育てがしやすいと感じる実感。それで、ここはそういう意味なんだけど、世の中普通に子育てに関する実感がどうですかっていうと、何となく子育てイコール大変っていうか、本当に手がかかるっていうような、何となくネガティブな印象を、何か持たされているっていうか、いや大変ですよとか、御苦労様ですみたいで、なんとかしてくださいよみたいな、どうしても世の中のこの議論の大層がですね、ネガティブ的なイメージになる。だからこれ、うっかり何も本文読まないで、図表だけぱっと読むと、子育てに関する実感が大変っていうふうに思われちゃって、あれ、いる方がやっぱ大変だわっていうふうに、橙色が上に来るので、そりゃそうだよねっていうふうに言われちゃうと、実は全く逆の話をしているのではないかと。ここは、やっぱり子育てに関する分野別実感は、実はこういうことなんですよっていうのを、なるべく県民意識調査の設問の文言をできるだけ補うよう入れる、差し込む形にして、つまり、子育てがしやすいと感じる実感というふうに読んでください、という念押しをなるべく私もやったほうが、逆の解釈をされることを防ぐことができるんじゃないかなと思います。我々何度もここ議論しているので、当然この子育てに関する実感というのは、おそらく、しやすいと感じるっていうことだと思っけていますけれども、初めての方や、グラフだけで見ちゃう人が、なかなかそういうふうに見ていただけない可能性もあるなど。で、ちょっと補っていただくと。

それで、そうなるやっぱり子どもがいるっていう方が、子育てがしやすいっていう実感を感じているってことなんですよ。どの年度においても、全ての年代で。ということは、やっぱり我々が通常抱いている、子育て大変なんです、やっている方は本当に御苦労様です、っていうのはちょっと違う結果ではないかと。議論をこの中でやりましても、それはもう子育てが終わった人達が、ある意味で傍観的に見ている、外部的に見ていたからそう言えるんじゃないかかっていうふうな解釈もあるから、子育てしている方ほど、外から見てる人が大変っていうのかというところではなくて、若い人たち、特に20代、30代が子どもを持っている人の方が比較的高い。まあ、高くないと思うんですけども、乖離があるんですよ、その持っていない人との数字の間に、最初はなかったんだけど、ここ数年間乖離があった。30代は、結構な乖離があって、離れていまして、子どもを持っている人たちは、子育てに関する実感、つまり子育てしやすい実感がある程度ある一方で、30代で子どもを持っていない方が、なかなかそこは高くなっていない。

ここでどっちが原因か結果かって言うと、どっちっていうのは言いづらいんだけど、やはり子育てに、まさに当事者として携わっている方々に対しては、様々な支援策があり、それを利用することもできるし、そしてよかったということも感じていただけるんだけど、これから子どもをお持ちになろうとか、いやととてもとてもっていう人たちに、なかなかその子育てに関する育てやすさっていう、いろんな政策や工夫がなかなか届いていないのではないかとこのふうにも読めるので、どうしても子育て当事者さんばかりが対象にならないような、これから子どもをお持ちになる方々にも十分子育てっていうことに対しては、いろんな支援策があって、大変っていうだけじゃないです。とかね。或いはいろんな不安とかを、子どもを持っていない人でも、もちろん相談ができるような体制ということにつなげていくことが、もしできれば、どうしても今やってる人ばかりが大変

大変という、スポットライトが当たるっていうことになっているような傾向は、私自身ちょっと感じるので、それこそ子どもを持っている方も持っていない方も、子育てに関しては、十分な情報をお届けして、実際にそれが届いているっていうところまで持っていければ、この乖離がもうちょっと狭くなって、なおかつちょっと上の方に来てもらえると、これからの人たちにとっても、プラスになるのかなという意味で、この追加分析ってというのは、私が日常感じている、やっている方が大変ってというような意識をちょっと変えさせてくれた結果をいただいたので、これをいろんな形で生かせるように、あるいは、正確に読んでいる方に伝わるように、子育てに関する実感ってというのが、子育てしやすいという実感ですよ。是非そこを強調して、レポートを作っていただけというかなど。ちょっとそこの、言葉の補いをやれるところを丁寧にやっていただきたいという感じでした。これはいろいろ解釈があって、私だけの解釈ではないんですけども、私としては意外な結果に近いなというふうに思っています。いかがですかね。

**○松館政策企画課特命課長** そうしますと、吉野先生に最初にいただいた部分で、例えばグラフの1つ1つのタイトルの下などに、点数が高いほど子育てがしやすいと感じているとか、注釈をつけるような形でよろしいでしょうか。

**○吉野英岐部会長** はい、結構です。目立つというか、意味が逆にとられないようになっていればいいのかなど。そうですね。そこはもう御相談の上で。

**○松館政策企画課特命課長** そういった形で修正を加えていきたいと思います。

**○吉野英岐部会長** はい。ありがとうございます。特に30代がいろんな意味で今、大変だと言われている年代の方々ですので、そこでこんなに意識が違うということが出てきているのが現実かなと思いますので。むしろ、実際やってみればいろんな策があるので、全く何も助けてもらえないなんてことはないっていうのが現実だと思いますので、是非うまく伝わるようにやっていただきたいなと思いました。私が気付いたところは以上です。

他の方もさらに読み込んで気付いたところがあれば。ティー先生。

**○ティー・キャンヘーン委員** 35ページでさっき谷藤委員が言われた表24。これは、体調不良でこれから働くかどうかわからない、そういう不安があって低収入につながったっていうふうに読んじゃって、そうですね、何となくそうだね、っていうのはあるんですけども。それを載せるか載せないかっていうのは、悩ましいところではあります。というのは実際の感覚なんですけど、どうですかね。

**○吉野英岐部会長** これ一番多いから一番左に来ているんですかね、この意見が。

**○松館政策企画課特命課長** そうですね。資料編の664ページ。こちらが仕事のやりがいでもらった意見でして、将来の収入・給料の額の見込みのところ、6番の選択肢になっています。そして、実感が低下した方の、体調が良くないときの先の収入が不安、という形

で書いてありましたので、そこは体調不良という形で記載したのかなと思いますので、ここは、そのまま書いてしまった方がいいのかなと今思っています。

それから、低収入など、というのがここから抜けていましたので、ひょっとしたら、個人情報に関係もあって、一緒に書いてあったのも削除してしまったのかもしれないので、場合によっては、空欄にするという手もあるかなと思っていますが。

○**谷藤邦基委員** いいですか。

○**吉野英岐部会長** 谷藤委員、どうぞ。

○**谷藤邦基委員** 単純に体調不良だと、個人的な問題でしょうっていう感じは私はするんですよね。ただね、ここの体調が良くないときの先の収入が不安っていうのは、若干、一般的にあるかなっていう気はする。なので、この文言全部載せるなら、それはありかなって、今見ていて思いました。

○**松館政策企画課特命課長** そういった形で、修正したいと思います。

○**吉野英岐部会長** 書いてある通りに載せる。細工はしていませんよということ。

○**ティー・キャンヘン委員** 想像ではなくてということ。さっき言ったように、私のように想像ではなくて、本当にそういう状況にあるっていうのがわかるので、いいと思います。

○**吉野英岐部会長** 載せる場合はそのまま載せるのがいいのではないかと。

○**松館政策企画課特命課長** 承知いたしました。

○**吉野英岐部会長** その他に御質問御意見よろしいですか。さっき出た所感のレイアウトはこんな感じなんですかね。77ページ。なんか左側が無駄に広いような気もしないでもないですが。

○**松館政策企画課特命課長** こちらは去年までのレイアウトをそのまま載せていましたので、基本的にはこういった枠とかは、特に囲まなくて、各委員の所感をそのまま載せる形になるかなと思っています。

○**吉野英岐部会長** この縦横の枠は実際外す可能性もありますと。わかりました。これは広く拾ったからこんな感じですか。議事録から拾ったから。

○**松館政策企画課特命課長** そうですね。

○吉野英岐部会長 ちょっとこのレイアウトは少し変更される可能性があるということですかね。ティー委員、どうぞ。

○ティー・キャンヘン委員 心づもりで。いつ私たちのその発言が届くでしょうか。

○松館政策企画課特命課長 これまでの部会の発言ですが、今取りまとめておりましたので、今週中にはお送りできると思います。

○吉野英岐部会長 今週中。すぐ来るってことです。すぐやんなきゃ駄目。そこが遅れるとね、言い訳できるんですけど。届いたらすぐ見てくださいとのことのございます。その他に御質問や御不安があれば。今のうちに言ってください。

さっきの字数も目安ですからね。1,000字に届かなきゃ届かないで。よく全体の答案の8割書けていけば、まあいいかっていうぐらいで。最低ラインの8割ぐらいは書いていただければいいし、最高でも1,400字に絶対に収めなきゃいけないってことでもなさそうなので、その辺は削りに削って、1,400字ってことはしなくて、1,500字ぐらいであれば、大目に見てもらえるんじゃないかなと思いますんで、あまり字数制限に厳密な規制をするわけじゃないっていうふうに私は思っていますけど、それでいいですかね、事務局も。

すみません、勝手に言っちゃったけど。だから自分の議事録から抜いてくるのももちろんありで、それを上手につなげれば、文章的には問題なければ、自分が言ったことですのでね、それはそれでいいんじゃないかなと思っています。

では、全体的にもしこの後、部会の後にですね、やっぱり気付いたっていう点があれば、本当に世の中に出す前に、気付いている方が絶対いいので、遠慮なく細かいところも含めて、事務局の方に、御提案なり御指摘をいただければと思います。竹村先生よろしいですか。

○竹村祥子委員 吉野先生のお話を聞いていて、やっぱりもう1つだけ言っておこうと思うのは、最後の資料2-2。審議会用の資料ですかね。

○吉野英岐部会長 そうですね。審議会用の資料にもなるけど、概要版ですので一般に広く出すものっていう。

○竹村祥子委員 その8ページのところなんですけど、ちょっと文字が多くなるかもしれないんですけども、この表のところの回答の割合のところ、感じるの割合が感じないより多い、となっているのですけれども、ここに良い影響をっていうのをちょっと入れていただくと、良い影響を感じるの割合が感じないより多い、で、今度は3行目のところは、今度は良くない影響ですよ。良くない影響を感じるの割合が、感じないより多いっていうことですよ。ここの3行目ですね。

○吉野英岐部会長 というふうに補った方がより伝わるのではないかという御指摘でしょうか。

○**竹村祥子委員** これも感じる、感じない、感じるってなっているんで、左側をちゃんと見ながらそこを読めば、わかるのですけれども、そこのところだけ見ると、先ほどのちょっと、先にこういうふうにあるべきだっていうふうに考えている人が読み間違うというふうに思いまして、もし文字が入るなら、一番上の行は、良い影響をって入れて、次は良くない影響をと、次は良くない影響をその括弧の前に入れていただけると、入りますかね、いいのかなっていうふうに思います。

○**吉野英岐部会長** 事務局いかがでしょうか。

○**松館政策企画課特命課長** ここはスペースの関係もありますので、少しいろいろ工夫してみても、わかりやすいように再検討したいと思います。

○**竹村祥子委員** 前は不等号が入っていて、今回の方がわかりやすいなと思って。さらに、わかりやすくなると思います。

○**松館政策企画課特命課長** ここはわかりやすいようにというか、そういった形で修正を試みたいと思います。後程また先生方に修正したものをお送りして、御確認いただきたいなと思います。

○**吉野英岐部会長** ありがとうございます。なんか表6と表7だけ、よく見たらゴシックが抜けているんだよね。その表4、5までは太字になってますけれども、最後に作ったから、そこがちょっと太字になってないけど、まあそんなことも含めて、直していただければいいかなと思います。この概要版には、最後、日付とか入るんですか。どうしてしましたか。今はこの資料の日付が入っているけど、最終版については。

○**松館政策企画課特命課長** 特には今までは入れていませんでしたね。どこかに追加しましょうか。

○**吉野英岐部会長** 一番最後でもいいけど、本編と同じ日付の方がいいんじゃないですかね。これはホームページに載せる。こちら本編も概要版もね。概要版は、総計審で配付というか、お手元に届けると。

さらに、実は発表する時は、もっと短い原稿になっているんじゃないかな、確か。これ全部読んでみると、10分ぐらいじゃなかったでしたっけ。確か。どんなに長くても。なので、10分でこのページ全部読めないんで、確かもっと短くして、実際は総計審で御報告させていただくというようなことだったと記憶しております。ちょっと若干修正していただきたいと思います。

その他、今の時点で特になければ、内容については概ね了解というか、これまで議論を積み重ねてきておりますので、ここに至って大きな内容の修正については御指摘がなかったということをお認めまして、表現の問題であるとか、レイアウトの問題とかですね、語句

の問題につきまして、いくつかの修正、指摘がございましたので、それを事務局の方で適宜修正していただいて、部会長もそれを確認した上で、最終のものとしたいと思っています。

それから先ほど、お話あった通り所感については、ですます調で1,000から1,400字程度で普通にワードで。形式は自由でいいですか。先生方の。

**○松館政策企画課特命課長** 形式は御自由で結構です。

**○吉野英岐部会長** ワードで、形式自由で、字数、決められた字数の範囲で、できれば10月2日を目途に事務局まで御送付していただきたい、というところであります。特別の事情がある場合は、その前に早く事務局の方にお伝えしていただければ、秘密の締切りが出てくるかもしれませんけれども。そういうことをなるべくやらないように考えていただくしかないかなと思っています。

一番読んでもらえるところだと思うんですね。全部報告書を読んでいただくのは、本当に作っている方が言っちゃいけないんですけど、大変な労力をおかけしますので、どこ読めばいいのって言われたらこの辺、是非是非っていうときに、各委員の所感というのは、一つの大きな目印になると思いますので、読んでいただける可能性が高いというふうに思って、お書きいただくことでいいんじゃないかなと思っています。

最後の最後は、事務局と私の方で最終確認させていただいた上で、県庁の方に決裁いただいて、総合計画審議会で提出、報告という段取りでいきたいと思っています。ありがとうございます。では、以上のスケジュールで進めます。

では、次の議題ですけれども、令和6年の県民意識調査（補足調査）について、事務局からお願いします。

**○松館政策企画課特命課長** それでは資料3を御覧ください。資料3によりまして、令和6年1月に実施する補足調査について、御相談するものとなります。内容といたしましては、2点ございます。1点は調査票について、もう1点は、調査対象者の追加・更新等についてでございます。

まず1ページを御覧ください。調査票についてです。(1)見直しの考え方ですけれども、アといたしまして、今年実施した設問を基本としますが、分野別実感の変動を適切に把握するために必要に応じて修正すると。イといたしまして、今年の調査実施以降の社会経済情勢等を踏まえ、回答理由と関連の強い要因の選択肢について、関係部局に照会して必要に応じて修正すると。それから、ウといたしまして、新型コロナウイルス感染症の影響の設問については、継続するとしております。イの関係部局への照会については、今現在、照会中というところになります。それから、ウの新型コロナウイルス感染症のところですけども、こちらについては、今年度の部会で来年も実施したほうがいと御意見いただいておりますので、本体の県民意識調査も含めまして、継続を予定しております。

(2)の変更内容等についてです。まず全体の設問の修正につきましては、今年度、これまでの部会の審議におきまして、修正の必要性に関する意見は、特になかったものと認識しておりますので、基本的には、令和5年調査の設問を継続したいと考えております。変

更が1点だけございまして、(2)アの設問の削除(案)ということで、四角で囲んでいるところですが、令和5年調査の間8というところで、補足調査の対象者の方々に令和6年調査以降の協力意向を確認しておりましたけれども、この後御説明いたしますけれども、対象者の追加・更新等については、今年度の作業とする予定でして、来年度の作業予定はありませんので、この間8の部分については、令和5年調査では、削除したいと考えています。それからイのその他としまして、関係部局への照会ですけれども、先ほど御説明したとおり、現在、庁内各部局に、回答理由と関連の強い要因の選択肢の修正の必要性について、照会しております。こちらについては、9月22日を締切りとして、今照会中ですので、仮に修正意見が寄せられましたときは、別途メール等で皆さんに御相談したいと思っております。

続いて、2ページ目をお開きください。調査対象者の追加・更新等についてです。(1)の経緯のところですが、令和2年に対象者600人で開始しております、これまでに、調査を4回実施したところです。その中で追跡不能となった対象者が増加しているということで、令和5年調査では、回答者数が522人ということで、単純計算で13%の減少となっております。それから、同じ対象者を追跡してきたということで、年齢構成が変化してきていると。3ページの表1を御覧いただきたいんですけども、中程、年齢層の部分となっております、18から19歳については、一番左、令和2年調査対象者の欄のところですが、1.8%。令和5年、3年経ちますと0.0%になっていると。それから20から29歳につきましては、同様に8.7%から4.8%。30から39歳については、同様に16.3%から12.1%という状況になっております。一方、70歳以上につきましては、令和2年の17.0%に対して、令和5年の回答者が23.9%と増加しているという状況です。

2ページにまた戻っていただきまして、(1)の3つ目のポツのところですが、現在の対象者については、平成31年に実施した意向調査で、調査期間を令和6年までの予定としていたということです。そのような事情もございましたので、(2)の1つ目ですが、令和5年補足調査におきまして、令和6年以降の調査への協力継続について意向確認をしております。そうしたところ、回答者522人のうち、協力してもよいという方が353人、どちらでもよいという方が134人ということで、継続に協力を得られそうな方は、合計487人という結果でした。そういったわけで、600人にするためには少なくとも113人の追加が必要となっております。

一方で、令和5年県民意識調査の本調査の対象者の方にも、令和6年以降の補足調査への協力について、意向確認の調査をしております、協力してもよいという方が492人、どちらでもよいという方が1,300人という結果になっております。この方々が補足調査の新たな対象者の候補となるかと思っております。そして(3)対象者の追加・更新等の方針(案)ということで、調査対象者の構成についてですけれども、令和2年調査開始時の構成を基本としまして、対象者の追加・更新等の作業を行いたいと考えております。具体的には、各広域振興圏に150人ずつ、男女比を概ね1:1として、年齢層については、表に記載の構成割合に近づけようとするものです。ただし、米印で記載をしておりますけれども、県外への転出率及び調査への未回答率が高いと想定される若年層を優先したいと考えております。その下の点線の囲みの中ですが、仮に、この方針で対象者の追加・更新等を行った場合、調査継続について、協力してもよい、どちらでもよいと御回答いただいた487人

のうち33人については、地域、年齢層、性別で令和2年の調査開始時より増加している部分に該当する方になりますので、令和5年調査をもって調査終了としまして、454人について調査を継続すると。そして、600人にするために、146人を新たな対象者として令和6年から追加して、令和6年の補足調査を実施したいというふうに考えております。以上のような方針で、追加・更新等をしたいと思っておりますが、御意見等を伺えればと思っております。説明は以上となります。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。来年行われる令和6年調査の内容につきまして、調査対象者の選定、あるいはその人数等、細かく御説明いただきました。御質問、御意見ありましたらお願いしたいと思います。全体的な方向性は、これでよろしいですか。今年、調査期間長くしましたよね。あれは、返ってこなかったからでしたっけ。

**○松館政策企画課特命課長** 県民意識調査の本体の方ですか。

**○吉野英岐部会長** 本体は長くした。補足調査は長くしていない。

**○松館政策企画課特命課長** 補足調査は、基本的に2月で一旦締切りを切っていて、1人だけ3月に届いた方がいらっしまったので、最終的にはその方も。

**○吉野英岐部会長** 3月に届いた人も入っているけど、ほとんどの人が2月に入ってきている。本調査の方が長めになったのでしたか。平年よりも確か低かった。

**○山本調査統計課主査** 調査統計課でございます。今お話いただいた通り、令和5年調査の方は、通常の回収期間までですと、ちょっと回収率がはかばかしくなくて、少しでも回収率を高める、データを確保するという意味で、3月まで回収期間を延長いたしました。

**○吉野英岐部会長** それは何か通知を出したんですか。

**○山本調査統計課主査** すでに調査票は対象者に配布済みの状態でしたので、例年、遅れて締切り過ぎてから届くものがいくつかあったので、普段の年ですと、2月以降に届いたものは、回収期間後ということで集計に入れてなかったんですが、それを、今年は集計結果に含めるという形で、改めて増やすのではなくて、遅れてきたものもそのまま含めるというやり方で、回収率を少しでも高める、そういう工夫をいたしました。

**○吉野英岐部会長** 督促したんですか。例年やっている。

**○山本調査統計課主査** 督促につきましては、例年2回ほど督促かけております。その点は、今年回収率が低かったから、何かさらに回数を増やしてというようなことまではいたしませんでした。

**○吉野英岐部会長** 有効に使える票を増やしたというか。なるほど。この補足調査の方はそういった工夫を令和5年はしなくても大丈夫だったと。結局、御協力いただくかいただかないか、先方のお気持ちなので、気持ちよく継続的に、特にこっちの補足調査は、継続を同じ人に、どうしてもお願いするわけですね。ですから、その辺りもういいわって、思わなくなっていたかかないように、色々この長くなっている方には、一つよろしくお願いしますっていうのを伝えて。はい、和川委員。

**○和川央委員** 補足調査とは趣旨が違うのですが、今県民意識調査の本体調査の方の督促状の話が出たので、1点だけコメントというか、お願いしたいと思うのですが、例年督促状は調査票を回答してない人にだけ出していたのですが、今年は、確かスケジュールの関係で、いわゆるリマインド、つまり調査票を出していた人も出していない人も、忘れないで出してくださいよっていうことをやられたと聞いてました。実はリマインドと、出していない人に対してピンポイントで出すのとは、効果が全然違うと言われてます。リマインドの場合には、出そうと思った人にだけ効果があって、出そうと思わない人には効果がない。けれども、あなた出してないよと通知が来れば、お、やばいと思って、そもそも出そうと思っていない人にも効果があると言われてますので、できれば、もしも実務的に可能なのであれば、リマインドではなくて今まで通りの催促状を出してもらえれば、少しは回収率が改善するかなと考えます。

**○吉野英岐部会長** 本調査の方ですね。わかりました。ちょっとその辺は工夫していただいて、費用対効果の問題もあるでしょうからね。一番効果的なメッセージ。どう出すか。委員の御意見も踏まえながら決めていただければと思います。補足調査ってのは、そういう督促出してないのでしたっけ。もうほとんどの方は、締め切るまでに返してくる。

**○松館政策企画課特命課長** 出しているそうです。

**○吉野英岐部会長** 1回は出しているんですか、その締切り前に、いつが締切りですからよろしくお願ひしますと。締切り過ぎた人に出しているわけじゃなくて。でも高いよね。それはもともとやる気がある人って言えばその通りなんだけれども、今回、令和6年にも当たる人って5回目。5回連続5年間、あの膨大な調査票におつき合いいただいているということなんでもんね。しかも調査の中身はほとんど変わらない。

10年同じ調査を同じ人にやるっていうのは、県のいろんな統計調査の中でも、まずやってらっしゃらない。何か復興の何でしたっけ、ウォッチャー調査、あれは10年ぐらいになりましたっけ。

**○小野政策企画部長** 10年ぐらいになります。

**○和川央委員** 今でもやっております。毎四半期やっていたのを、今1年に2回に減らしてやっているのですが、ただあの調査はサラリーマンの方とか、なんて言うのでしょうか、転勤する方も結構多いので、実際に十年間やっている方は、どれだけいらっしゃるかって

いうのはちょっと把握していないのですが、かなり出入りのある対象者になっているところ、今回のものとは、性質がちょっと違うんですね。

○吉野英岐部会長 規模も600人ぐらいでしたっけ。

○和川央委員 150人程度でやってまして。

○吉野英岐部会長 そうすると、相当こちらの補足調査っていうのは、規模も大きいし期間も長いので、県民の方にもね、本当に御協力をいただいているっていうのをちょっと肝に銘じながら、レポートも作んなきゃいけないかなと改めて思った次第ですけれども、とにかく6回目をお願いすることになるだろうかと、5回目か。連続5回目をお願いする方向で進めるということだと思います。はい。谷藤委員。

○谷藤邦基委員 大体落ち着いたと思うので、ちょっと本筋と違うことを。追跡不能者っていう方が78人という状況ですよ。追跡不能ということの意味は、郵便出しても戻ってくる、あるいは行きっ放し。その辺はどんな感じですか。

○松館政策企画課特命課長 ここで追跡不能ということで一くくりにしておりますけれども、お引越しされてしまって、県内には進んでいらっしやらない方、それから、残念ながらお亡くなりになってしまった方ですとか、そういった方が含まれます。調査票を実際に送る前に、一旦、今年も調査しますのでよろしく願いしますということで、御連絡をするんですけども、例えば、その後に御家族の方から、亡くなってしまったのでもう協力できません、そういった形で御家族から御返答がくるというパターンがあります。それから、実際に調査票を送っても何も返って来ないという方もいらっしやるということで、追跡不能といった形で書いております。

○谷藤邦基委員 なんでそれを伺ったかっていうとですね、表の1で令和5年調査対象者の数字っていうので、150とその数字の差が、いわゆる追跡不能ということになるんですけど、要は沿岸とか県北が多いんですよ。だからその辺、要は人口が減っている地域でもある、ということとオーバーラップするのがちょっと気になっていまして、亡くなった方もいるのかもしれないし、県外へ転出っていう方もいるのかもしれませんが、ちょっとそこがね、別の意味で気になっていたんです。だから本筋と関係ないって言ったのはそういうことなんです。だからその辺は、そこを追求したから何が出てくるっていうことではないにしても、やっぱりちょっと気になるところですね。ちょっと感想でした。

○吉野英岐部会長 地域によって追跡不能の方の割合が異なってるのは事実のようだと。特に沿岸、県北でやや他の地域に比べると高いと。理由はちょっと不明ではあるけれども、そういう現実もありますということです。そうすると入替えも起こりやすくなるんですね。今回、入替えをして、沿岸、県北にはかなり新しい方をお願いすることになる。

その他はよろしいですか。竹村先生もよろしいですか。来年の調査、この形で進めます

ということで。はい、ありがとうございました。

それでは概ね了解いただきましたので、この方向で令和6年の調査を進めていただきたいと思いますし、当然補足調査だけやるわけじゃないので、全体のね、その県民意識調査についても、ちょっと令和5年、やや、厳しい状況に追い込まれましたので、令和6年の調査について、できる限りの手を打って、単純に期間だけ伸ばせばいいわけじゃないかもしれないんですけども、県民の御協力をいただけるように、努力をお願いしたいと思います。ありがとうございます。それでは、次はその他でいいですか。その他について事務局の方からお願いします。

**○松館政策企画課特命課長** その他で1件でございますけれども、資料4といたしまして、令和6年度の分析部会の開催予定等についてということで、資料を1枚お付けしております。来年度のスケジュールの確認ということになります。

来年度の分析につきましても、例年通りの実感の変動要因の分析というところを想定しております。基本的には今年度と同様に、部会を5回開催するスケジュールを今のところ想定しているところです。5月から6月にかけて、第1回から第3回まで部会を開催しまして、全体的な分析をしていただきまして、7月には年次レポートの素案を作成、庁内では政策評価に活用すると。それから10月頃に第5回ということで、年次レポートの内容を決定しまして、11月の総合計画審議会に報告するというスケジュールを想定しております。来年度の予定につきましては以上となります。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。これは今年度とほぼ同様のスケジュールで来年度も動かしたいということで、特段の御支障がなければ、このスケジュールで引き続き委員の皆様御協力を得たいということになります。実際、これは、辞令じゃなくなったんですよね。任命でしたっけ、新しい附属機関条例によるところの。

**○松館政策企画課特命課長** 形式としては辞令書を出す形で。

**○吉野英岐部会長** 4月1日でまたってということですね。はい。いろいろ御都合があるかと思っておりますけれども、ちょっと途中段階でもあるので、とりあえずもう1年、皆さんの御協力いただければありがたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。はい、ティー委員。

**○ティー・キャンヘーン委員** 所感が頭から離れなくて。これ10月で大丈夫でしょうか、所感書けと言われると多分、全員が。

**○松館政策企画課特命課長** 基本的には第5回の年次レポートを決定する部会については、毎年度10月に設定していて、今年はスケジュールの関係で、9月になってしまったというところがありますので、来年度は一応10月に設定したいなと思っております。所感ということになりましたならば、早めに御相談をして、十分な時間を確保できるようにしたいと思います。その時は御協力よろしく申し上げます。

○**ティー・キャンヘン委員** ありがとうございます。

○**吉野英岐部会長** そうですね。今年は今日9月12日。だから、通例は10月に最終回を行っているってことで、ちょっと今年は逆に早かったと言えば早かった。わかりました。その他、委員の方から御意見あれば伺いたいと思います。はい。私たちの方からは以上です。事務局の方にお戻ししたいと思います。

○**八重樫政策企画課評価課長** 長時間にわたり御審議いただきまして、誠にありがとうございました。本日をもちまして、予定しております本年度の審議会の方は最後となりますので、小野政策企画部長から一言御挨拶させていただきます。

○**小野政策企画部長** 分析部会の委員の皆様には、今年度も5月17日の第1回部会から本日まで、5回に渡って非常に緻密に専門的な分析をいただきました。本当に頭の下がる思いでございます。委員の皆様、お忙しい中、様々事前の読み込みから始まって、本当にお時間をおかけしての分析部会ということで、心より感謝申し上げます。

先ほどのパネル調査についても、全国でも例を見ないといったお話がございましたけれども、まず幸福指標を掲げ、それを総合計画に盛り込んだ。それについて、こういう形で、専門的な観点から分析部会を設置して、毎年度、緻密に分析しているというのは、和川先生も多分いろいろ見ていらっしゃると思いますけれども、全国を見てもないと言っていいというふうに思っております。

また、ちょっと思い起こしますと、まず研究会のところで、幸福指標、幸福感の考え方、体系についてまとめていただきまして、それを、踏まえて、県の方で計画の方に反映させました。そこからティー先生をお迎えしまして、分析部会が立ち上がりまして、出だしが評価手法ですね、幸福指標の方を用いてどういうふうに分析するのかからスタートして、手法も含めて御検討いただきまして、分析を毎年度さらに深いところに進めていただいているといったことで、今年度につきましては、子育てといったところ、昨年までのコロナに加えてですね、子育てという新たな視点を加えての分析をしていただきました。やはり幸福指標の設定、計画への反映、そして、これからはその計画を進めるにあたって、どういうふうにこの幸福感、幸福指標を活用していくかというところで、まさに先ほどお話しした子育てといった切り口が出てきた。先ほど吉野先生からは、もしかすると、子育てに関する政策の情報が、十分に届いていないというところもあるんじゃないかといった御意見を頂戴しております。これも含めて、やはりこういった分析部会での御検討の結果を政策に活用していくと。これが委員の皆様の大変な御苦勞と御貢献に対して、我々がしっかり応えていかなければいけないところだというふうに思っております。

今年度の分析部会におけるレポートの取りまとめをいただきました。これを来年度以降の施策の方に反映させて参りますし、様々な切り口をいただいておりますので、これをしっかりと県として受けとめるよう努力して努めて参りたいというふうに思います。今年度も1年間本当にありがとうございました。

**○八重樫政策企画課評価課長** 5月から5ヶ月間にわたり、吉野部会長、委員の皆様膨大な資料、データを読み込んでいただき、深く多岐にわたる御意見御助言を頂戴いたしまして、この最終案と言えるような状況まで来ることができました。誠にありがとうございました。今後につきまして、本日頂戴いたしました御意見を反映させまして、レポートを完成させていきたいと考えております。

総合計画審議会においては、吉野部会長の方からは概要版という形で御報告していただく予定としております。それでは以上をもちまして、本日の部会を終了いたします。誠にありがとうございました。